

NASDAQ 100



Gold plus

NASDAQ100 ゴールドプラス

追加型投信／海外／資産複合

販売用資料
2025年5月
(2025年5月7日使用開始)

2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社は
「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に社名変更します。
社名変更後URL : www.amova-am.com

amova
アモーヴァ・アセットマネジメント

アセットマネジメント(am)を
ムーヴ(move)する

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

 **岩井コスモ証券**

岩井コスモ証券株式会社 金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第15号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会

設定・運用は

日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

先物取引を活用し、米国株式と金に純資産総額の200%相当額(米国株式100%+金100%)の投資を行なうファンド、

それが、**NASDAQ100ゴールドプラス**
Gold plus



当ファンドでは、先物取引を積極的に活用することで、
純資産総額の200%相当額の投資効果が見込まれます。

また、値動きの特性が異なる米国株式と金を組み合わせることで、
運用効率の向上や**下値抑制効果**が期待されます。

※米国株式では先物取引を一部活用し、金では金先物に投資をします。なお、上記は、当ファンドの資産配分のイメージです。

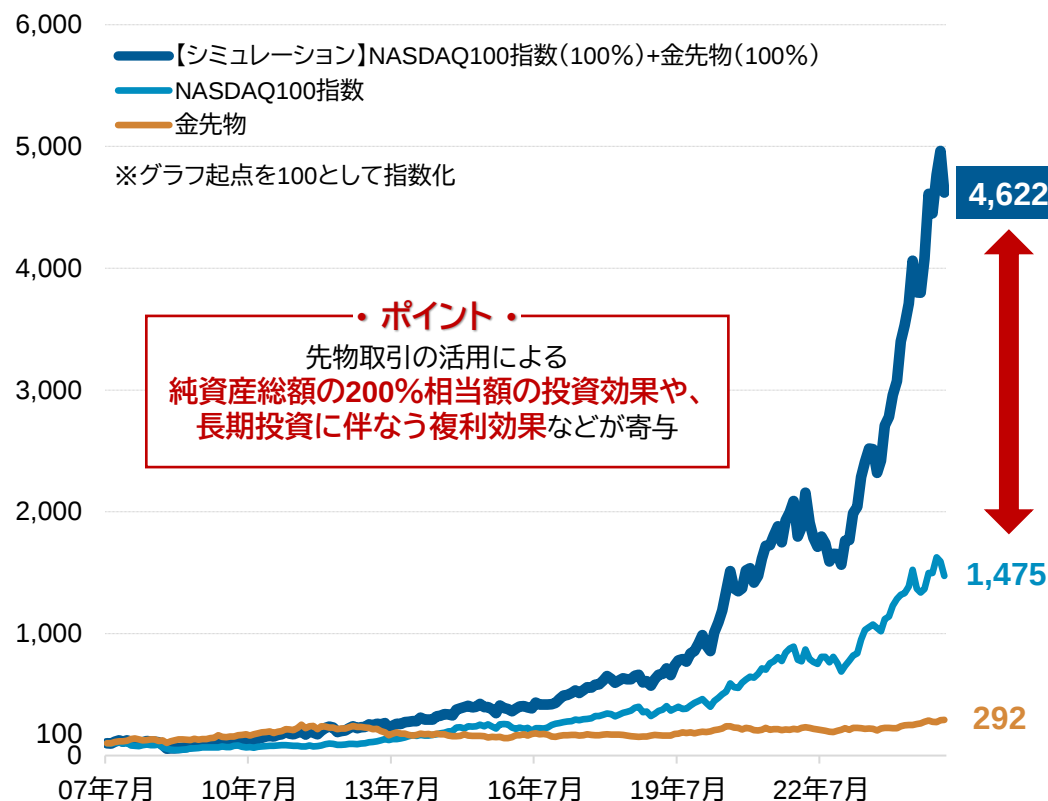
■シミュレーション結果①

(先物取引を活用し、米国株式と金に純資産総額の200%相当額(米国株式100%+金100%)の投資を行なった場合)

先物取引の活用により、「純資産総額の200%相当額の投資効果」が見込まれる

<各資産とシミュレーションの推移>
(2007年7月末～2025年2月末、月次)

下記は過去のものおよびシミュレーションの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません。



□ 左記のシミュレーションでは、先物取引の活用による純資産総額の200%相当額の投資効果や、長期投資に伴う複利効果などが寄与し、堅調なパフォーマンスとなったことが確認できます。

- ※ NASDAQ100指数: NASDAQ100指数(税引後配当込み、米ドルベース)の値を日興アセットマネジメントが円換算、金先物: プルーフバグ金サブ指数(エクセスリターン*ベース、米ドルベース)
- * 先物取引のロールオーバーなどを考慮したものです。
- ※ 【シミュレーション】については、上記のNASDAQ100指数と金先物を100%:100%の割合で合成し、月次リバランス
- ※ 金先物は米ドルで決済される先物取引を活用しますが、買建額に対する為替変動の影響がないことから米ドルベースを掲載しています。
- ※ 実際の金先物取引では、評価損益分や外貨建て証拠金については為替変動の影響を受けます。
- ※ 上記指数は、当ファンドのベンチマークではありません。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 左記は、過去の指数データをもとに算出したシミュレーションの結果であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。当ファンドの運用においては、売買コストや信託報酬、運用資産の規模、設定解約に伴う資金流出などによる影響が生じます。そのため、当ファンドの運用成果が、左記シミュレーションと同様のリターンを達成することを約束するものではありません。運用開始後の当ファンドの実際のパフォーマンスなどについては、開示資料をご覧ください。

※ 純資産総額の200%相当額の運用を行なうことなどから、左記シミュレーション期間中の値動き(リスク)が大きかった点には十分ご注意ください。

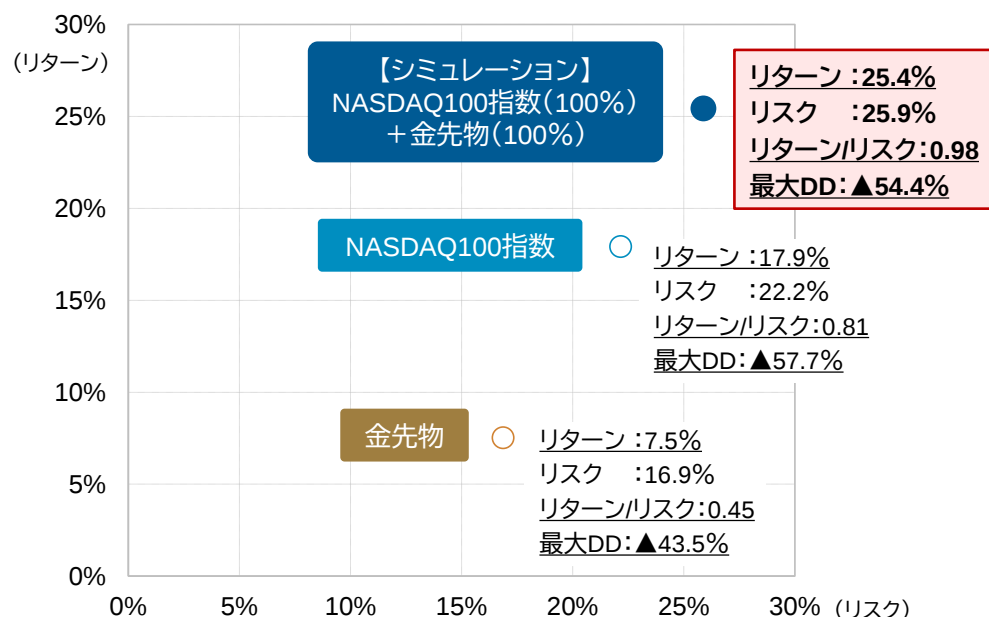
■シミュレーション結果②

(先物取引を活用し、米国株式と金に純資産総額の200%相当額(米国株式100%+金100%)の投資を行なった場合)

米国株式に金を組み合わせることにより、「運用効率の向上や下値抑制効果」が期待される

＜各資産とシミュレーションの年率リスク・リターン＞
(2007年7月末～2025年2月末)

下記は過去のものおよびシミュレーションの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません。



・ ポイント ・

NASDAQ100指数や金先物のみへの投資に比べ、**リターンや運用効率の向上**が確認できるほか、**最大DDは、NASDAQ100指数のみに投資した場合よりも抑えられる**結果に

□ 米国株式に金を組み合わせることにより、運用効率の向上や下値抑制効果などが期待されます。左記のシミュレーションにおいても、リターンの向上だけでなく、運用効率の向上が確認できます。

□ さらに、先物取引を活用し、純資産総額の200%相当額(NASDAQ100指数と金にそれぞれ100%相当額ずつ)の投資を行なう場合、NASDAQ100指数に100%相当額投資した場合よりも最大ドローダウン*(DD)を抑制できたことから、下落抑制効果も期待されます。

* 高値から最も下落した期間の下落率(最も悪いタイミングで投資を行なった場合の下落率)

※ 使用した指数や計算前提は前ページと同様です。

※ リターンは月次リターンの平均、リスクは月次リターンの標準偏差を、それぞれ年率換算

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 左記は、過去の指数データをもとに算出したシミュレーションの結果であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。当ファンドの運用においては、売買コストや信託報酬、運用資産の規模、設定解約に伴う資金流入などによる影響が生じます。そのため、当ファンドの運用成果が、左記シミュレーションと同様のリターンを達成することを約束するものではありません。運用開始後の当ファンドの実際のパフォーマンスなどについては、開示資料などをご覧ください。

※ 純資産総額の200%相当額の運用を行なうことなどから、左記シミュレーション期間中の値動き(リスク)が大きかった点には十分ご注意ください。

ファンドの特色

1

米国株式および金に分散投資を行ない、収益の獲得をめざします。

- 「インデックス マザーファンド NASDAQ100」、米国の株価指数先物取引および金先物取引に係る権利を主要投資対象とします。
- 「インデックス マザーファンド NASDAQ100」は、NASDAQ100指数(税引後配当込み、円換算ベース*)に連動する投資成果をめざして運用を行ないます。なお、原則として、為替ヘッジは行ないません。

*公表指数をもとに日興アセットマネジメントが円換算します。

※ NASDAQ100指数は、米国のナスダック市場に上場している企業のうち、金融業を除いた時価総額上位100社の株式で構成される、同国の代表的な株価指数の一つです。

2

先物取引を積極的に活用し、信託財産の純資産総額の200%相当額の投資を行ないます。

- 米国株式については、「インデックス マザーファンド NASDAQ100」の組入総額および株価指数先物取引の買建総額の合計が、信託財産の純資産総額の100%相当額となるよう投資を行ないます。
- 金については、金先物取引の買建総額が、信託財産の純資産総額の100%相当額となるよう投資を行ないます。
- 現物資産の組入総額と先物取引の買建総額との合計額が、信託財産の純資産総額の200%相当額となるよう投資を行ないます。

基準価額変動リスクの大きいファンドですので、ご投資の際には慎重にご判断ください。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

当ファンドの実質的な運用について

- 当ファンドは、米国株式と金に投資を行ないます。先物取引を積極的に活用することで、投資における資金効率を高め、純資産総額の200%相当額の投資を行ないます。なお、投資に際しては、投資資金の大部分を実質的に現物の米国株式に投資するとともに、残りの資金を外貨建て証拠金として用いて、株価指数先物と金先物の取引も行ないます。

当ファンドの運用方法



米国株式への投資において、一部に**先物取引を活用**することで、
米国株式と同等額の金投資が可能に

※上記はイメージ図です。

資金効率を高めた運用を実現

- 先物取引を活用しない一般的な分散投資では、投資資金が100万円の場合、例えば、米国株式と金に50万円ずつなどのように、投資資金を各資産に振り分けることになります。
- 一方、当ファンドでは、先物取引を積極的に活用することで、投資における資金効率を高め、米国株式と金に100万円ずつ投資した場合と同様の効果が見込まれます。

<当ファンドの投資と一般的な分散投資のイメージ>

	当ファンド	一般的な分散投資
投資資金	100万円	100万円
米国株式	約100万円に相当	50万円
金	約100万円に相当	50万円
実質的な投資金額	約200万円に相当	100万円

※ 米国の株価指数先物取引および金先物取引においては、買建額に対する為替変動の影響がなく、為替変動の影響を受けるのは主に評価損益分と外貨建て証拠金となります。ただし、米国株式の現物投資部分は実質的に為替変動の影響を受けます。

※ 米国の株価指数先物取引および金先物取引に投資する場合、先物取引の仕組みにより為替変動の影響が限定的であることから、為替が円安となる局面での為替差益も限定的となります。

※ 実際の運用は、純資産総額の合計が200%とならない場合があります。

※ 右記の<当ファンドの投資と一般的な分散投資のイメージ>における当ファンド部分については、100万円の投資資金に対して、200万円相当額(投資資金の2倍相当額)の運用が行なわれることを示すものであり、投資資金(元金)が実際に200万円に増えることを示すものではありません。

※ 市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

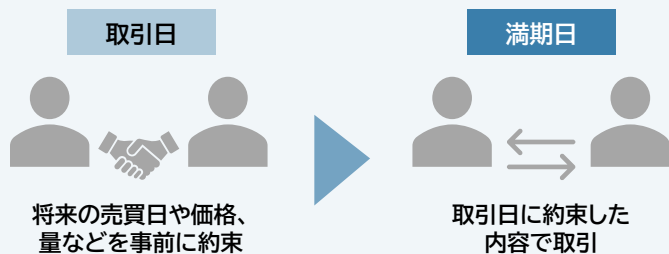
先物取引の活用により期待されること

- 先物取引を活用することにより、「レバレッジ(てこ)効果」や「為替変動リスクの限定」などが期待されます。

先物取引とは

- 先物取引とは、「本来であれば将来に行なわれる取引について、今の時点で原資産(取引対象となる株式、債券、商品など)の価格を約束する取引」です。
- 将来の受け渡し時点の価格を事前に確定できることで、その間の価格変動リスクをヘッジ(回避)することが可能になります。
- 先物取引は、株式、債券、商品など様々な資産で行なわれます。当ファンドで用いる先物は、取引所に上場されており、幅広い投資家が取引する流動性が高いものを対象とします。

<先物取引のイメージ(例)>



※上記はイメージです。

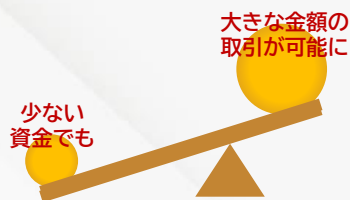
1 レバレッジ(てこ)効果

- 先物取引では、投資金額に一定の比率*1を掛けた金額を証拠金として差し入れることにより、少ない資金で大きな金額の取引を行なうことができます。

*1 資産や投資規模などにより異なりますが、通常は数%程度です。

- 小さな力で大きな効果を得る「てこ」になぞらえて、レバレッジ効果と呼ばれます。

<レバレッジ(てこの原理のイメージ)>



※上記はイメージです。

2 為替変動リスクの限定

- 海外資産の現物取引では、購入・売却時に両替が必要であることから、投資金額全体に為替変動リスクが及びます。
- 一方、先物取引では、差金決済(反対売買を行ない差額を授受する決済)となるため、為替変動リスクが及びるのは、評価損益分と外貨建て証拠金に限定されます。
- 当ファンドでも、先物取引における為替変動リスクが限定的となることから、ファンド全体の為替変動リスクは純資産総額の200%分よりも小さくなります。

<ファンドの投資対象別為替変動リスク>

	現物	先物	為替変動リスク
米国株式	●		あり
		●	限定的*2
金		●	限定的*2

*2 評価損益分や外貨建て証拠金には為替変動リスクがあります。

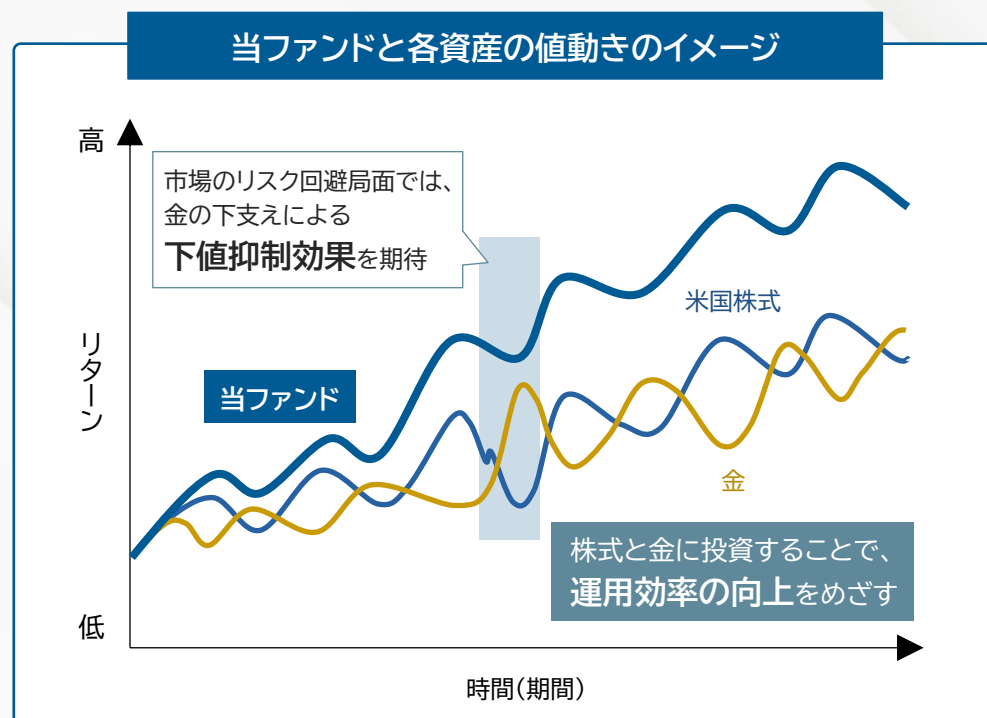
※上記は、先物取引の活用により、一般的に期待される効果について記述したものです。

※ 米国の株価指数先物取引および金先物取引においては、買建額に対する為替変動の影響がなく、為替変動の影響を受けるのは主に評価損益分と外貨建て証拠金となります。ただし、米国株式の現物投資部分は実質的に為替変動の影響を受けます。

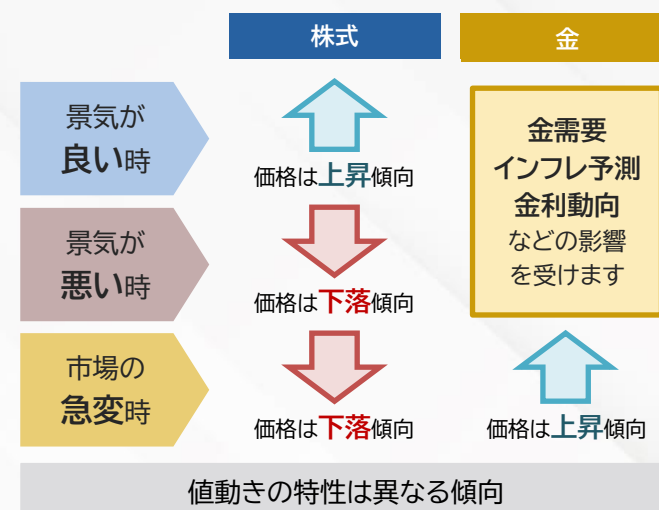
※ 米国の株価指数先物取引および金先物取引に投資する場合、先物取引の仕組みにより為替変動の影響が限定的であることから、為替が円安となる局面での為替差益も限定的となります。

当ファンドの値動きのイメージ

- 値動きの特性が異なる株式と金を組み合わせることで、運用効率の向上が期待できるほか、市場でリスク回避の動きが強まる局面では金が強みを発揮し、ファンド全体の値を抑制することが期待されます。
- 当ファンドは、米国株式および金への投資において、先物取引を活用することで、純資産総額の200%相当額の投資を行ないます。そのため、日々の基準価額の変動が大きくなります。



(ご参考) 株式と金の値動きの特性イメージ



※ 株式と金の値動きの特性についての説明は一般論であり、実際は異なる値動きをする場合があります。

※ 中長期的には、複利の効果により、当ファンドと、米国株式、金のパフォーマンスとの乖離がプラスにもマイナスにも大きくなる可能性があります。

※ 当ファンドのリスクについては、後述の「リスク情報」をご覧ください。

※ 上記は当ファンドの値動きについてのご理解を深めていただくためのイメージであり、実際の運用成果などを保証するものではありません。

NASDAQ100指数の特徴



- 当ファンドでは、米国株式への投資において、NASDAQ100指数*に連動する投資成果をめざします。

※ マザーファンドならびに米国の株価指数先物取引を通じて投資を行ないます。

* 税引後配当込み、円換算ベース

- 同指数は、全米証券業協会(NASD)が運営する、世界最大級の新興企業向け株式市場、米ナスダック市場に上場している企業のうち、金融業を除いた時価総額上位100社の株式で構成される、調整済時価総額加重型の株価指数です。
- 同指数は、1985年1月31日に算出が開始され、現在の指数値は算出開始時の値を125として計算されています。

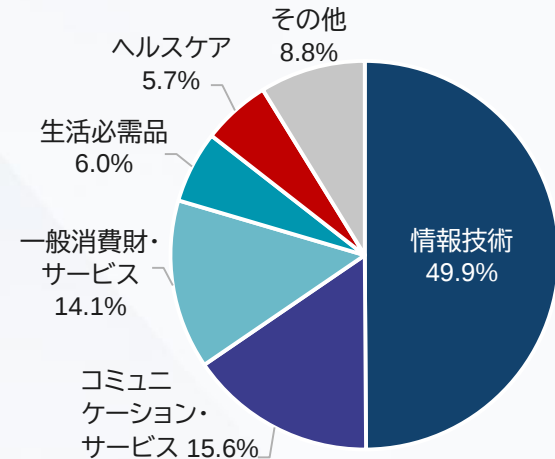
世界有数のハイテク企業などが多く含まれる

<構成上位銘柄>
(2025年2月末現在)

	銘柄名	国・地域名	業種	構成比率
1	アップル	米国	情報技術	9.5%
2	エヌビディア	米国	情報技術	7.9%
3	マイクロソフト	米国	情報技術	7.7%
4	アマゾン・ドット・コム	米国	一般消費財・サービス	5.8%
5	ブロードコム	米国	情報技術	4.0%
6	メタ・プラットフォームズ	米国	コミュニケーション・サービス	3.8%
7	コストコ・ホールセール	米国	生活必需品	3.0%
8	テスラ	米国	一般消費財・サービス	2.8%
9	ネットフリックス	米国	コミュニケーション・サービス	2.7%
10	アルファベット	米国	コミュニケーション・サービス	2.6%

情報技術を中心に多様な業種で構成

<業種別構成比率>
(2025年2月末現在)



※ 比率は指数の時価総額比です。
※ 四捨五入により、合計が100%とならない場合があります。

※ 業種名は世界産業分類基準(GICS)のセクター分類に基づきます。

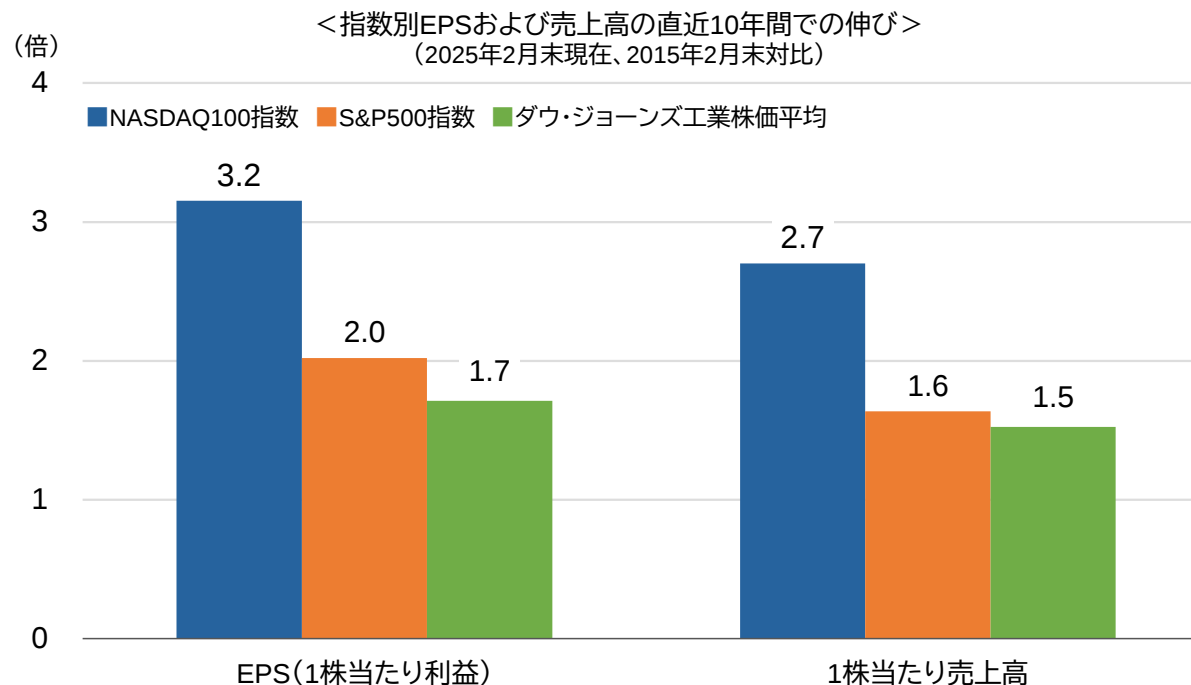
信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

指数構成銘柄の高い成長性

- NASDAQ100指数では、定期的に銘柄入替が行なわれていることから、時代の変化を反映した新たな成長銘柄の組入れが期待されます。
- 将来の成長を重視した積極的な投資などにより赤字となることが多い新興企業についても、一定の要件を満たせば、同指数の構成銘柄に採用される可能性があります。このような背景もあり、同指数には成長性の高い銘柄が相対的に多く含まれていると考えられます。

成長性の高い銘柄が相対的に多く含まれる傾向



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

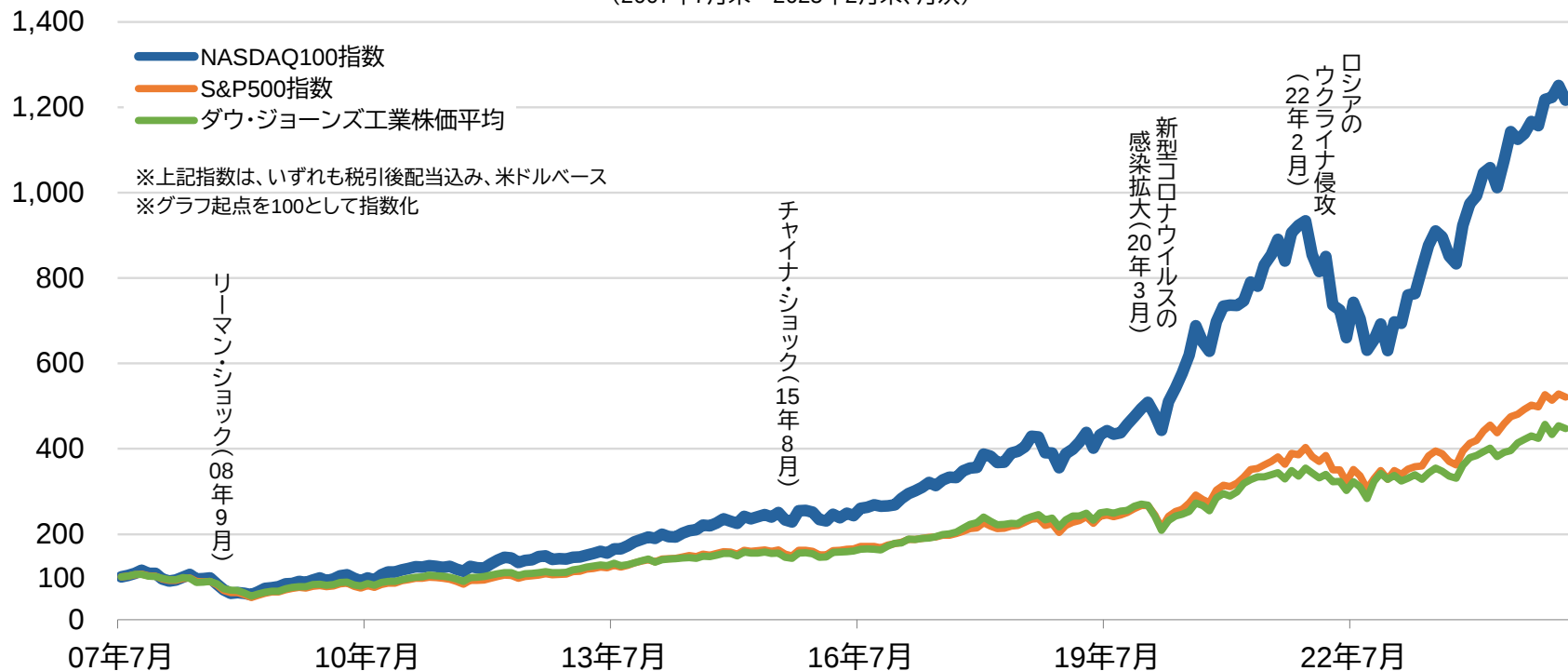
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

株価指数の推移

- NASDAQ100指数は、構成銘柄の成長性が高い傾向にあることなどから、中長期にわたり相対的に大きな成長を遂げてきました。

米国の主要株価指数の中で、中長期で相対的に良好なパフォーマンスに

＜米国の主要株価指数の推移＞
(2007年7月末～2025年2月末、月次)



※上記指数は、いずれも当ファンドのベンチマークではありません。

信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

金の特徴

- 金は、それ自体に価値がある実物資産であることから、インフレに強く、また、世界情勢に先行き不透明感が強まる局面でも買われる傾向があります。
- 換金性が高く、世界中で同価値として扱われていることから、「世界共通の資産」とも言われます。

実物資産や守りの資産としての側面がある金

実物資産としての側面

- 腐食などによって劣化しない
- 産業用・宝飾品としての需要がある
- 金自体としての資源価値を持つ

「インフレに強い資産」「価値がゼロになりにくい資産」

守りの資産としての側面

- 株式や債券などと異なり、企業のデフォルトとは無縁である
- 国・地域を問わず同一の価値を持つ
- 主要資産と値動きの特性が異なる傾向がある

「有事の金」「市場急変時に選好される傾向」

※上記は金についての一般論であり、実際とは異なることがあります。

「有事の金」とも呼ばれ、市場急変時に選好されやすい

＜金価格の推移＞
(2007年7月末～2025年2月末、月次)



※ 金: スポット価格(米ドルベース)、世界株式: MSCI ACワールド指数(税引後配当込み、米ドルベース)

信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

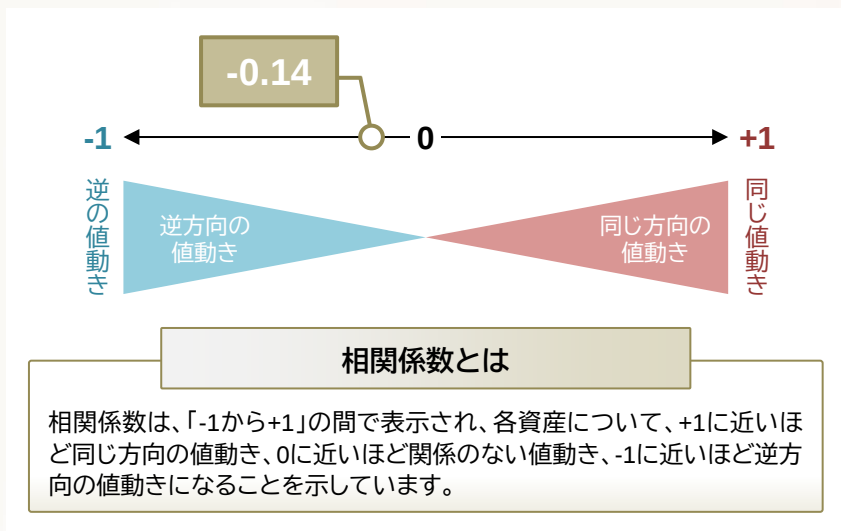
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

分散投資先として選好される金

- 当ファンドでは、金先物取引を通じて、金にも投資を行ないます。金には、株式や債券などの主要資産と値動きの特性が異なる傾向があることから、分散投資先として金を選択することで、ポートフォリオの運用効率の向上が期待できます。
- 株価が下落する局面で相対的に高い下落耐性を示す傾向もあり、ポートフォリオ全体の下値抑制効果も期待されます。

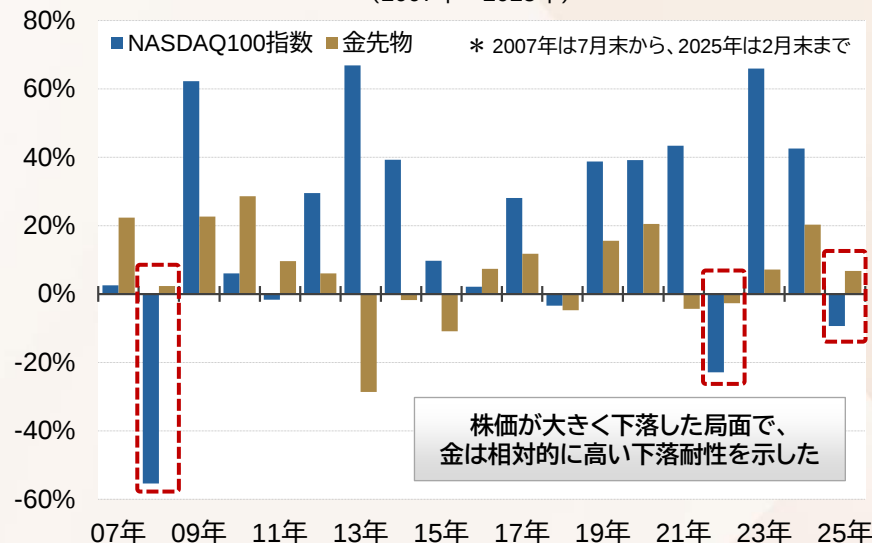
NASDAQ100指数と値動きの特性が異なる傾向

＜NASDAQ100指数と金先物の相関係数＞
(計算期間：2007年7月末～2025年2月末、月次)



株価が下落する局面での下支え効果が期待される

＜NASDAQ100指数、金先物の年間騰落率＞
(2007年～2025年)*



※ NASDAQ100指数：NASDAQ100指数(税引後配当込み、米ドルベース)の値を日興アセットマネジメントが円換算、金先物：ブルームバーグ金サブ指数(エクセスリターンベース、米ドルベース)
 ※ 金先物は米ドルで決済される先物取引を活用しますが、買建額に対する為替変動の影響がないことから米ドルベースを掲載しています。なお、実際の金先物取引では、評価損益分や外貨建て証拠金については為替変動の影響を受けます。
 ※ 上記指数は、当ファンドのベンチマークではありません。

信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

(ご参考) 金価格の主な騰落要因

- 金価格は、宝飾品需要や中央銀行の保有需要、テクノロジー需要、鉱山生産量などの需給面での動向のほか、金融市場の安定性や世界的な金利水準の変化など、投資環境面での動向にも影響されます。

金価格はさまざまな要因の影響を受ける



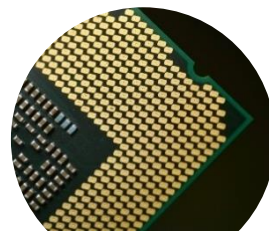
宝飾品需要

中国やインドなどを中心に宝飾品としての需要が旺盛



中央銀行の保有需要

近年、新興国の中央銀行が、資産の分散先として金を選好



テクノロジー需要

耐久性や導電性などに優れ、産業用としての需要も大きい



鉱山生産量

金供給量の多くを占めているが、近年、採掘コストが増加傾向



米ドルの価値、信頼度

主に米ドル建てで取引されるほか、米ドルの代替通貨と見なされる傾向



金融市場の安定性

金融市場が不安定な局面で、有事の金として選好される傾向



インフレ動向

実物資産であることから、インフレ耐性がある



世界的な金利水準

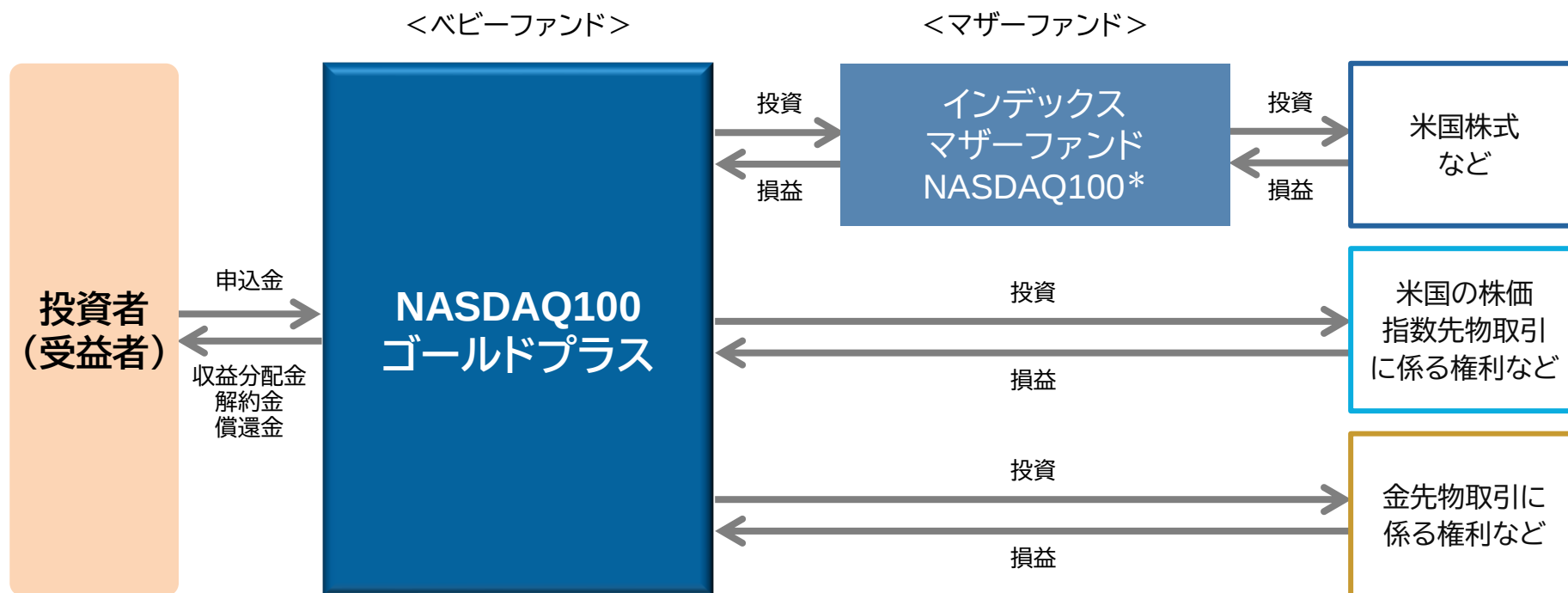
金利がつかない分、世界的な金利上昇時には、相対的な投資魅力が低下

※上記はあくまでも一般論であり、実際はこれと異なる場合があります。写真はイメージです。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、主にマザーファンドに投資するファミリーファンド方式で運用を行ないます。

※ ファミリーファンド方式とは、投資者から投資された資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。



* 株式のほか、NASDAQ100指数への連動をめざすETF(上場投資信託)などへ投資を行なう場合があります。また、株価指数先物取引などを活用することがあります。

指数の著作権等について

「NASDAQ100指数」

当ファンドは、Nasdaq, Inc. またはその関連会社(以下、Nasdaq, Inc. およびその関連会社を「ナスダック」と総称します。)によって、支援、推奨、販売または販売促進されるものではありません。ナスダックは、ファンドの合法性もしくは適合性について、または当ファンドに関する記述および開示の正確性もしくは妥当性について認定するものではありません。ナスダックは、当ファンドの保有者または公衆一般のいかなる者に対しても、一般的な証券投資または特に当ファンドへの投資についての妥当性や、NASDAQ-100 Index®の一般的な株式市況への追従可能性について、明示的か黙示的かを問わず、何らの表明もしくは保証も行ないません。ナスダックと日興アセットマネジメント株式会社との関係は、Nasdaq®およびNASDAQ-100 Index®の登録商標ならびにナスダックの一定の商号について使用を許諾すること、ならびに、日興アセットマネジメント株式会社または当ファンドとは無関係に、ナスダックが決定、構築および算出を行なうNASDAQ-100 Index®の使用を許諾することに限られます。ナスダックは、NASDAQ-100 Index®の決定、構築および計算に関し、日興アセットマネジメント株式会社または当ファンドの保有者の要望を考慮する義務を負いません。ナスダックは、当ファンドの発行に関してその時期、価格もしくはその数量の決定について、または当ファンドを換金する際の算式の決定もしくは計算についての責任を負っておらず、また関与をしていません。ナスダックは、NASDAQ-100 Index®とそれに含まれるデータの正確性および中断されない算出を保証しません。ナスダックは、NASDAQ-100 Index®またはそれに含まれるデータの利用により、日興アセットマネジメント株式会社、当ファンドの保有者またはその他いかなる者もしくは組織に生じた結果についても、明示的か黙示的かを問わず、何らの保証も行ないません。ナスダックは、明示的か黙示的かを問わず、何らの保証も行なわず、かつNASDAQ-100 Index®またはそれに含まれるデータの利用に関する、特定の目的または利用のための市場商品性または適合性については、いかなる保証についても明示的に否認します。上記に限らず、いかなる場合においても、ナスダックは、いかなる逸失利益または特別、付随的、懲罰的、間接的もしくは派生的損害や損失について、たとえもし当該損害等の可能性につき通知されていたとしても、何らの責任も負いません。

「上記指数以外で当資料で使用した指数」

※当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。

お申込みに際しての留意事項①

■ リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様にご帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式、株価指数先物取引および金先物取引にかかる権利を実質的な投資対象としますので、株式、株価指数先物取引および金先物取引にかかる権利の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化、金地金の市況の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- 株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- 株価指数先物取引および金先物取引にかかる権利の価格は、投資対象となる原資産の値動きや先物市場の需給などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、当該先物取引にかかる権利の値動きに予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

【流動性リスク】

- 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券および先物取引にかかる権利などの取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

【信用リスク】

- 投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

(次頁に続きます)

お申込みに際しての留意事項②

(前頁より続きます)

【為替変動リスク】

- 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

【デリバティブリスク】

- 金融契約に基づくデリバティブとよばれる金融派生商品を用いることがあり、その価値は基礎となる原資産価値などに依存し、またそれらによって変動します。デリバティブの価値は、種類によっては、基礎となる原資産の価値以上に変動することがあります。

【レバレッジリスク】

- 株価指数先物取引および金先物取引などを積極的に用いてレバレッジ取引を行ないます。したがって、株式および金地金市況の影響を大きく受けます。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様には「NASDAQ100ゴールドプラス」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認くださいの上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込みメモ

商品分類	追加型投信／海外／資産複合
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	<当初申込期間> 1口当たり1円 <継続申込期間> 購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購入の申込期間	<当初申込期間> 2025年5月7日から2025年5月15日まで <継続申込期間> 2025年5月16日以降
信託期間	無期限(2025年5月16日設定)
決算日	毎年10月10日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がナスダック証券取引所の休業日、ニューヨーク商品取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※当ファンドは、NISAの対象ではありません。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し <u>3.3%(税抜3%)以内</u> ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し <u>年率0.924%(税抜0.84%)</u>
その他の費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用、運用において利用する指数の標章使用料などについては、 <u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額</u> が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。また、有価証券の貸付は現在行なっておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。

※ 投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 〔ホームページ〕 www.nikkoam.com/ 〔コールセンター〕0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	岩井コスモ証券株式会社 他

nikko **am**
Nikko Asset Management